



さらなる力強い一歩をご一緒に

高橋 桂子*

新年明けましておめでとうございます。計測自動制御学会 SICE の学会活動にいつもご協力いただき心より感謝申し上げます。本年が会員の皆様にとりまして良い一年であることをお祈りいたします。

本稿を書いております 12 月は日中の気温が 20 度前後に届く日々が何日もあり、観測史上、平均気温が最も高い一年を記録した「沸騰する地球」を思わずにはおれません。やっとコロナ禍から脱出できたと思う私たちですが、今なお続く国内外情勢の混迷には明るい兆しをなかなか見出せません。一方で、本年はオリンピックイヤー。スポーツ界の若手選手の明るい話題に勇気づけられつつ、本年の SICE も明るく力強い歩みを会員の皆様と刻むことができるようにと強く思います。

本会第 62 期も 3 か月を残すところとなりました。昨年 7 月の臨時社員総会にてご承認いただいたように財務処理の適正化に伴い今期から 3 月末にて期の更新がなされます。第 62 期学会運営は、より活発な学会のありようを実現するために、様々な取り組みを進めてまいりました。総務委員会では、デジタル化タスクフォースを発足し、会誌および論文誌のさらなるパワーアップと財政基盤の改善を目的としてデジタル化推進計画の立案と実行プロセスが整理されました。また、若手・女性・賛助会員等の活躍をさらに後押しするための新学会賞の制定も進められています。財務委員会では、財務基盤のさらなる頑健化に向けて、部門や支部からの意見招集に基づく予算計画の策定支援、学会諸活動への支援強化を見据えた予算運用の検討と企画が進められています。会誌出版委員会および和文、英文論編集委員会においては、投稿優待キャンペーンや公開・オープン化の増強、査読プロセスにおける負担軽減化が検討、実施され、インダストリー委員会では、新たな産業界とのつながり促進企画が検討されています。加えて、メンバー委員会では、会費徴収プロセスの簡素化や従来から実績を挙げているアウトリーチ活動での他学会との協力強化も進められています。国際委員会により推進されている海外コミュニティとの連携強化や契約更新は、本年も滞りなくアップグレードされており、特に昨年は IFAC2023 における SICE のポジションを堅実なものにしていただく

ための尽力をいただきました。企画委員会では、昨年 9 月に開催した拡大理事ワークショップでの成果を基盤に来期の計画策定と実施準備が着実に進められており、学会賞委員会も今期の贈賞に向けたプロセスが着実に進められています。さらに、SICE Annual Conference (AC) 2023 の盛会は実行委員会と AC 委員会のご尽力の賜物であることは言うまでもありません。このように運営活動は多岐にわたり、これら全体にわたる事務局の多大な尽力についても付け加えます。現在も今期の成果とりまとめ、会員の皆様への報告準備および次期への着実な引継ぎ準備を進めております。これら今期の運営活動の成果の詳細については、本年 3 月の社員総会にて報告する予定です。

もう少し踏み込んで推進したかったと個人的に思う現時点での反省点は、「ダイバーシティ・インクルージョンの実現」にむけた具体的な目標設定についてです。目標設定自体は可能なのですが、目標を実感として共有し、恒常的なとりくみとして皆様の活動に結びつけていただくことが極めて重要です。この点は残された期間でさらに努力をしてみようと考えております。この課題に関する会員の皆様からのご意見、ご要望がありましたら、是非お聞かせいただきたくお願いいたします。

「一年の計は元旦にあり」と申します。皆様、本年の目標や計画の策定は完成されておられますか。盤石という方々も、これからという皆様も、是非、SICE での活動をもうひとつ付け加えたいと思います。昨年の拡大理事ワークショップと AC2023 で AC Driving Committee 委員長の大須賀公一先生（阪大）からご紹介いただいた AC 新構想は「フェスティバル化」を指向したもので、様々な参加形態が推奨され、とても楽しみです。詳細については今後順次、お知らせがあるものと思いますが、新構想実現には会員皆様のご支援とご協力がなくてはならないものと思います。

2024 年もご一緒に SICE を盛り立てていただき、力強い歩みを継続できますよう皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

(2023 年 12 月 12 日受付)

*2023 年度（令和 5 年度）会長

*早稲田大学